

第 11 節 TSTA (Teaching Supervising Transactional Analyst) 試験

11.1 はじめに

11.2 TTA (Teaching Transactional Analyst)、STA (Supervising Transactional Analyst)、TSTA (Teaching Supervising Transactional Analyst) 試験の受験資格

11.2.1 はじめに

11.2.2. TTA (Teaching Transactional Analyst) の受験資格

11.2.3. STA (Supervising Transactional Analyst) の受験資格

11.2.4 TSTA (Teaching Supervising Transactional Analyst) の受験資格

11.3 スーパーヴィジョン

11.3.1 TSTA 試験のために認定されるスーパーヴィジョン

11.3.2 スーパーヴィジョンの時間

11.4 PTSTA のトレーニングとスーパーヴィジョン時間の記録

11.5 試験の申し込み

11.6 試験申し込みの取り下げ

11.7 試験

11.7.1 導入

11.7.2 試験の前に

11.7.3 試験

11.8 採点手順

11.9 TSTA 試験における試験官のためのガイドライン

11.10 TSTA 試験のスーパーヴィジョンセッションにおけるスーパーヴァイジーのためのガイドライン

11.11 委員長、プロセスファシリテーター、オブザーバー、通訳者の役目 (第 9 節を参照)

11.12 一部合格

11.13 抗議

11.14 書類書式

11.1 はじめに

TEW に出席し、TSTA トレーニング契約にサインし、それが承認されたら、候補者は TSTA になるためのさらなるトレーニングに入る。このトレーニング期間中、PTSTA は教えたりスーパーヴィジョンをすることができるが、それは TSTA によるスーパーヴィジョンのもとでなされる。このトレーニング期間の最後に、国際的な試験委員会の前で口頭試験を受ける。PTSTA は、ITAA の組織構造の文脈内における理論、倫理、ティーチング、スーパーヴィジョンにおいて、自分自身の力量を示すよう求められる。いずれの場合も、既にその候補者が認定されていて、なおかつ TSTA になろうとしている応用領域に関する必要条件が適用される。

候補者によっては、ティーチングの資格 (TTA)、もしくはスーパーヴィジョンの資格 (STA)、というようにいずれか一方のみの資格を得たいと望む人もいるかもしれないし、両方とも資格は有していないスーパーヴァイザーや教師と契約をしている人もいるだろう。この節では、用語の不必要な重複を避けるために、文脈的に問題がなければ、PTSTA は PTTA と PSTA を含む。TSTA には TTA と STA を含む。

11.2 TTA (Teaching Transactional Analyst)、STA (Supervising Transactional Analyst)、TSTA (Teaching Supervising Transactional Analyst) 試験の受験資格

11.2.1 はじめに

すべての候補者は、以下のことを満たさなければならない。

- 現時点で IBOC か COC か TSC との間でトレーニング契約を結んでいること。
- CTA として、IBOC か COC か TSC のいずれかによって認定されていること。
- トレーニング契約期間中に、異なる試験会場で少なくとも 5 回試験官をしていること。
- 3 通の推薦書を提出していること。
 - 1 通は、現在のスーパーヴァイザーからのものであること。
 - そして 2 通は、候補者のワークをスーパーヴィジョンしたことがある、他の TSTA 達からのものであること。

加えて、候補者のスーパーヴァイザーは、その候補者との TSTA トレーニング契約の間、3 つの TSTA 試験開催地で試験官をしていなければならない。

11.2.2. TTA (Teaching Transactional Analyst) の受験資格

TTA の受験資格として、候補者は 11.2.1 による一連の基準は全て満たしていなければならない。推薦書は、候補者のティーチングに関して触れているものでなければならない。それに加えて、候補者は以下を満たしていなければならない。

●倫理、ティーチングとトレーニングの全ての領域において、IBOC か COC か TSC によって承認された TEW を申し分なく完全に修了していること。

●300 時間の TA を教えた経験で、そこには以下のものを必ず含んでいなければならない。

○ティーチングのうち 45 時間は、EATA か ITAA か FTAA のメンバーである TSTA にスーパーヴィジョンを受けており、そのうち 20 時間は“ライブ”でなければならない。

- 最初の TA101 に関して、“ライブ” スーパーヴィジョンを受けて、その質を承認されていること (12.4.2 を参照のこと)。
- 場合によって (例えば遠隔地など)、ライブスーパーヴィジョンの調整をつけることが難しい場合には、スーパーヴァイザーの判断で、ライブスーパーヴィジョンの時間数のいくらかを異なる専門分野のスーパーヴァイザーから受けるという形や、オーディオテープかビデオテープによって受けるという形をとっても良い。
- この TA101 のスーパーヴィジョンは、必要とされるスーパーヴィジョン時間に含めない。
- 継続した専門職としての教育や成長の時間が 100 時間に達していること。
- 学会や専門的な会議において、プレゼンテーションを少なくとも 12 時間おこなっていること。そのうち 6 時間は、全国的会議、もしくは世界的な会議でなければならない。

11.2.3. STA (Supervising Transactional Analyst) の受験資格

STA の受験資格として、候補者は 11.2.1 に示された基準をすべて満たしていなければならない。推薦書は、候補者のスーパーヴィジョンに関して触れているものでなければならない。それに加えて、候補者は以下の事を満たしていなければならない。

- 倫理、スーパーヴィジョン、トレーニングの全ての領域において、IBOC か COC か TSC によって承認された TEW を申し分なく完全に修了していること。
- 個人あるいはグループ形式のスーパーヴィジョンの中で、TA の活用に関してスーパーヴィジョンを行った 500 時間の経験。そこには以下の事を含んでいなければならない。
 - 少なくとも 2 人以上のスーパーヴァイザーのそれぞれに対して、最低 40 時間のスーパーヴィジョンを行った。
 - スーパーヴィジョンのうち 50 時間は、TSTA によりスーパーヴィジョンされたもので、少なくともその半分は“ライブ”でなければならない。テープやビデオによるスーパーヴィジョンも、“ライブ”と見なされる。
- 専門職としての教育と成長の時間が 100 時間に達していること。

11.2.4 TSTA (Teaching Supervising Transactional Analyst) の受験資格

TSTA の受験資格として、候補者は 11.2.1、11.2.2、11.2.3 に示されている基準をすべて満たさなければならない。推薦状は、候補者のスーパーヴィジョンとティーチングの両方に関してカバーされたものでなければならない。いずれの推薦書にも、スーパーヴィジョンとティーチングの両方に関する推薦文を含んでいる必要はないが、両方の専門的知識の領域について推薦されていなければならない。

11.3 スーパーヴィジョン

11.3.1 TSTA 試験のために認定されるスーパーヴィジョン

PTSTA に要求されるスーパーヴィジョンの少なくとも 50%は、候補者が選択した専門分野の TSTA と行ったものでなければならない。残りのスーパーヴィジョンの時間は、他の専門分野の

TSTA と行ったものであってよい。

スーパーヴィジョンは、スーパーヴァイザーとトレーニングやスーパーヴィジョンについて議論するものかもしれないし、あるいはそれは「ライブのスーパーヴィジョン」になるかもしれない。例えば、スーパーヴァイザーはトレーニングの一コマに参加し、その後でスーパーヴィジョンをしてもよいし、候補者がスーパーヴィジョングループかトレーニンググループの中の他のメンバーに対して行ったスーパーヴィジョンを、スーパーヴィジョンするかもしれない。

時にライブスーパーヴィジョンの調整をすることがとても難しいので、候補者がスーパーヴァイザーと合意できれば、ライブスーパーヴィジョンの時間のいくらかは以下のようなものを使うこともできる。

- ウェブカムあるいはオーディオまたはビデオによる記録を、スーパーヴィジョンに対するスーパーヴィジョンのために使用する。

- ウェブカムあるいはビデオによる記録を、ティーチングに対してスーパーヴィジョンするために使用する。

11.3.2 スーパーヴィジョンの時間

TSTA が指導するスーパーヴィジョングループにおいて、スーパーヴァイザーの前で、候補者が積極的にスーパーヴィジョンのためのワークをしているならば、候補者がスーパーヴァイザーと過ごすその時間はいずれも、1 時間のスーパーヴィジョンとして算入させることができる。そのトレイニーが、他のトレイニーのスーパーヴィジョンの間にそこに同席しているという場合は、その時間はたいていスーパーヴィジョンの時間として算入させない。これらの時間は、継続的な専門家としての成長の時間として算入される。

しかし、2 人あるいは 3 人の PTSTA たちが、グループの中で互いにやりとりをしながらスーパーヴィジョンを受けるという数時間を過ごしていて、そのスーパーヴィジョンやトレーニングの中で各 PTSTA が自分の発表をしているのであれば、各 PTSTA は全ての時間をそのスーパーヴァイザーとのスーパーヴィジョン時間として算入させても良い。

11.4 PTSTA のトレーニングとスーパーヴィジョン時間の記録

自分のトレーニング期間中ずっと、PTSTA は全てのティーチングとスーパーヴィジョン活動と、受けたスーパーヴィジョンに関する正確な記録をし続ける責任がある。候補者のスーパーヴァイザーは定期的にこの記録を点検しなければならず、この記録は試験の時に提出しなければならない。スーパーヴァイザーの仕事の一部は記録が正確であることを担保することである。この節に関連した書類の書式は 11 節の末尾に挙げられている。

TSTA のトレーニング契約に署名した後、1 年経った時点で、PTSTA は自身の年間要約レポートを、スーパーヴァイザーは PTSTA に関する年間要約レポートをそれぞれ完成させるべきである。トレーニングの各年ごとに、両者の要約レポートが作成され、そのコピーを TSTA 試験のためにとっておくべきである。

11.5 試験の申し込み

試験日の 6 か月前までに、候補者は受験料を支払い、自分が属している TA の組織に相談して、手続きや金額についてチェックし、以下のものを IBOC の事務所まで送る。

- 試験の申し込みフォーム（12.11.4 参照）を使って TSTA、TTA あるいは STA の試験を受ける意向を知らせること。
- スーパーバイザーの証明書フォーム（本節の末尾を参照）を完成させること。

11.6 試験申し込みの取り下げ

もしも PTSTA が試験申し込みを完了した後に、申し込みを取り下げる場合、試験日のまるまる 2 ヶ月前までに試験監督者に通知すれば、受験料は後の異なる試験機会に充当させることができる。もしも 2 ヶ月を切って通知した場合、その候補者は受験料の返還を求めたり、他の試験機会に充当させたりすることはできない。

11.7 試験

11.7.1 導入

候補者は以下のもののコピー 4 部を口頭試験に持参しなければならない。

- 候補者である PTSTA の各年ごとの、年間要約レポート（アニュアルサマリーレポート）
- 候補者のスーパーバイザーによる各年ごとの要約レポート
- 候補者の教育や、トレーニングや、経験が示された履歴書
- 推薦状 3 通（11 節 2.2 と 2.4 を参照）
- スーパーバイザーからの、TSTA 受験のための証明書
- 受験料を支払ったことを示す証拠
- ティーチングセクションのための背景や文脈を示した用紙（もし当てはまるのであれば）
- 試験を記録する機器、つまりこれは試験結果に抗議する場合に必要な不可欠である（第 9 節 10 抗議手続きを参照）。録音機器を持参することは強制された要件ではないものの、記録がなければ一切抗議はできないということである。

TSTA の試験中、候補者は以下のことを示すよう求められる。

- 候補者は TA 理論をよく理解していること。
 - そして TA を批判的に議論できること。
 - TA を他のモデルと比較対照させることができる。
 - TA を教えるのに有能であること。
- CTA トレーニーと PTSTA トレーニーを適切にスーパーヴィジョンすることができる。
- 他者とのコンタクトにおいて倫理的で、責任を負うことができ、信頼に足る。
- 国内の TA 組織と国際的な TA 組織の働きについてよく理解している。

TSTA の試験は 3 つのセクションから成り立っている。

- A. 理論、組織、倫理
- B. ティーチング
- C. スーパーヴィジョン

それぞれのセクションはおよそ 1 時間かかる（通訳が入るならば、もっと長くかかる）

採点、まとめと振り返り（デブリーフィング）の時間を含めると、理論セクションはおよそ 1 時間 15 分かかかる。ティーチングとスーパーヴィジョンの試験はおよそ 2 時間かかる。通訳が入る場合、時間は 50% まで伸びる可能性がある。

候補者はティーチングとスーパーヴィジョンのセクションに進む前に、理論・組織・倫理のセクションに合格しなければならない。従って TTA を目指す候補者は B セクションに進む前に A セクションを合格しなければならないが、C セクションは試験を受けない。STA を目指す候補者は、A セクションに合格しなければならないが、それから C セクションの試験を受け、B セクションは除外される。TSTA を目指す候補者は A セクションに合格しなければならないが、そのあとに B セクションと C セクションの試験を受けることになる。

11.7.2 試験の前に

- TSTA 候補者のための簡単なミーティングがたいてい試験前日に開かれる。
- 試験監督者が質問に答え、試験過程を説明し、採点用紙に目を通し、候補者の権利について伝える。
- 有資格者でありよく訓練された 4 人の試験官が、試験監督者によって選ばれ、試験委員会として働く。その中の一人が試験委員会の委員長に選ばれる。例外的であるが、必要な場合には 3 人からなる試験委員会が組まれることもある。
- 試験官は 1 日に 3 回を超えて試験官をすることはできない。

11.7.3 試験

A. 理論、組織、倫理のセクション

試験委員会は 1 度に 1 人の候補者の試験を行う。そして、

- 候補者が提出した文書ファイルを査読する。
- 候補者のトレーニングプログラムや実践に関連したトレーニング哲学について尋ねる。
- 高度な TA 概念に関して考える能力や、TA 理論と他のモデルやアプローチを比較したり統合する能力を明らかにするための質問をする。
- その国の TA の組織と、国際的な TA の組織に関する候補者の知識を評価する。
- 倫理的な専門家であるという候補者の自覚を評価する。
- これらの全ての側面を、TA の実践・発展のために首尾一貫したアプローチに統合していく候補者の能力を評価する。

試験委員会の質疑が終了したら、試験委員会は採点について討議する。

- 候補者は試験委員会が採点する準備を整える時点までは、いかなる時点でもプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。採点準備ができた時、委員長は今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを候補者に念押しする。また、候補者に採点の間、部屋に残るか退室するかを選択をさせる。この時点以降は、試験委員会のメンバーだけがプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。
- 試験委員会は TSTA 試験採点用紙を使って候補者を評価する。

B. ティーチングセッション

ティーチングセッションは、特別に試験のために設定された人工的な状況というよりも、むしろ日々の TA ティーチングやトレーニングの普通の実態になるべく近い設定を提供するよう意図されている。それによって候補者は以下のような機会を得る。それは、

- TA 理論と実践に明らかに関連しているトピックか、あるいは TA 理論と実践から選んだ 1 つのトピックについて、20 分の長さのティーチングのデモンストレーションを行う。
- 以下の情報が記された A4 の用紙
 - このティーチングの 1 コマが全体のトレーニングプログラムの中のどこに相応しく位置づけられているか、そしてそのティーチングを実際に教える日はどこに位置づけられているのか。
 - 参加者は誰なのか。
 - 候補者のトレーニングの中で参加者はどの水準あるいは段階にあるのか。

B.2 試験の進行

- 試験委員長が候補者を会場に招き入れ歓迎する。
- ボランティアの聴衆が試験開始の時点で会場に入り、試験全体のプロセスを通して、あるいは次のティーチングの最後まで会場にすることができる。これは候補者が決める。
- 候補者と試験委員会と聴衆の準備が整ったら、候補者と試験委員会との間の対話から始まり、その中で候補者は自分について試験官たちに手短かに話すよう求められる。
 - トレーニング哲学について。すなわちそれは、専門的あるいは倫理的な価値や基準のことであり、トレーニングプログラムの構造や手法の選択を決めるものである。
 - 学習に関する好みの理論モデル。それは TA か他の分野の理論から引用されたものである。
 - トレーニングプログラム全体と、試験におけるティーチングデモンストレーションと、その両方において、どんなティーチングの手法を選択しているか。
- この最初のディスカッションの 1 区切りは、5～10 分続くべきであるが、委員長の裁量で延長されるかもしれない。
- この最初のディスカッションにおいて、試験官たちは実際のデモンストレーションを査定するための最初の枠組みを得ようとする。すなわち、その候補者が行っていると報告した点からみて、実際にティーチングの中で候補者は何をしているかを評価する。
- それから候補者は 20 分間のティーチングのデモンストレーションを聴衆と試験委員会に対して行う。

- ティーチングのデモンストレーションは、候補者が日頃のトレーニングで実際に行っているセッションを代表したものでなければならない。それは、候補者が最初の対話部分で表明した理論的モデルあるいは学習のモデルと調和しているべきである。
- 普通デモンストレーションは、フォーマルな形の講義よりも、むしろ相互のやりとりがある手法を含んでいるだろう。例えば質疑応答や、ブレインストーミングや、簡単な体験的エクササイズなど。
- 教師として行動している候補者を試験官達が充分見る機会が得られるよう、デモンストレーションの手法を選択すべきである。自分のティーチングスキルを証明するために 20 分の時間枠でできるティーチング手法を選択することも候補者の責任であり、候補者のスキルの一部である。
- 20 分のティーチングデモンストレーションのうち、10 分の時間枠があるが、その中で試験官たちではなく聴衆のメンバー達が、教えられたトピックや、教えられたトピックと TA の他の側面との関係に関する質問をすることができる。自分の質問を選ぶ際に、聴衆メンバー達はできる限り自分自身であるように求められ、特定の経験レベルのトレイニーのいかなる役割演技をも求められていない。候補者は質問時間をティーチングの中に統合させることも選べるので、そうなるとティーチングのセッションは全体で 30 分の長さになる。
- この 10 分が終わると、試験委員会のメンバー達は候補者について質問する。しかし、試験委員会は TA101 ティーチングの後まで質問することを保留する選択をしてもよい。これらの質問には、候補者のティーチングやトレーニング活動に関する方法論、哲学、理論についてのものとなるだろう。質問には、候補者のトレーニング計画の構成など、候補者が TTA として認定される準備ができていると試験委員会が評価するためにまさしく必要な事項が入るだろう。
- もし候補者のティーチングのデモンストレーションの内容について質問することが候補者の最終的な評価においてとりわけ重要であると試験委員会が見なした場合には、試験委員会たちは、上述の事項にとらわれずに質問する。しかし、試験委員会の委員長は、この時間帯の試験官の質問は主にティーチングの哲学・理論的根拠・方法論に焦点を当てるということをよく認識しておくべきである。
- 試験委員会の委員長は候補者に TA101 のトピックが書かれている細長い紙の入った箱を差し出す（第 12 節参照）。候補者はその中から無作為に 1 つを選ぶ。それから候補者は最大 2 分まで準備をし、その後候補者は聴衆に対してそのトピックを教える。ティーチングそのものは 5 分であり、その後（トレイニーとしての）聴衆から 5 分の質問を受ける。この質問はティーチングに統合することができない。
- これが終わると、試験委員会はさらなる質問をしてよい、例えばティーチングの手法に関する質問である。
- 試験委員会の質問が終わった時、試験委員会は採点について討議してよい。
- 候補者は試験委員会が採点準備が整う前までならいかなる時もプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。採点に入る時、委員長は候補者にプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを告げ、部屋にいるか部屋の外で待つかの選択をするよう候補者に伝える。この時点以降は、試験委員会のメンバーだけがプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。

- 試験委員会は、TTA の試験採点用紙(12.11.8)を使用して候補者を評価する。

C. スーパーヴィジョンセッション

スーパーヴィジョンの試験は、候補者が、実務家のスーパーヴィジョン、および実務家のスーパーヴァイザーのスーパーヴィジョンの両方ができるということを実証するためのものである。候補者は明確なスーパーヴィジョンの哲学を持っており、適度な範囲のスーパーヴィジョンの諸モデルを使い、特定の契約を結ぶ能力やスーパーヴィジョンの鍵となる問題に対処する能力を示すことが期待されている。

C.1 スーパーヴィジョンの試験

- 委員長は候補者を会場に招き入れ歓迎する。
- 候補者と試験委員会とスーパーヴァイザーが次に進む準備が整ったら、試験は候補者と試験委員会との間の対話の時間から始まる。その中で候補者は、自分のスーパーヴィジョンのスタイルと自分のスーパーヴィジョンを導く専門職としての価値や倫理的な価値について簡潔に試験委員会に話すよう求められる。
- その後、候補者は二人のトレーニーに対してそれぞれ最大 20 分間スーパーヴィジョンするよう求められる（試験が通訳を含む場合にはそれ以上の長さになる）。スーパーヴァイザーは以下の二人である。
 - 教育、組織、カウンセリング、あるいはサイコセラピーのトレーニーであり、いずれであろうとも候補者自身の専門分野に対して適切であり、テープ素材を持ってきているかもしれない。
 - PTSTA は、自分自身がスーパーヴァイザーとして、あるいはトレーナーとして抱えている問題を提示することになっている。
- IBOC は先入観が入らないように、最初のスーパーヴィジョンの間は二番目のスーパーヴァイザーはその場にはいないように提案している。スーパーヴァイザーは全ての試験のプロセスの終わりか、各スーパーヴィジョンの終わりまで部屋に残ることができる。これは候補者が決める。
- もし試験委員会が望むのであれば、さらに候補者に対してこれらのスーパーヴィジョンのいくつかの側面について質問しても良い。その質問は、2つのスーパーヴィジョンの間の時間か、あるいは2つ目のスーパーヴィジョンの後に行われる。2つのスーパーヴィジョンの間に、採点結果が候補者に示されることはない。しかし、初めてのセッションで明らかにならなかった能力のうち、2番目のスーパーヴィジョンで示されるべきものに関してフィードバックが与えられるかもしれない。
- 試験委員会の質疑が終わってから、試験委員会は自分たちの採点について討議してよい。
- 候補者は試験官たちが採点の準備が整うまでの間ならばプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。採点の準備が整った時に、委員長は候補者に対して今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを告げ、部屋に残るか退室するかを選択権を候補者に与える。これ以降、合格か合格見送りの意見が述べられる時点までは、試験委員会のみがプロセスファシ

リテーターを呼ぶことができる。

- 候補者は STA の採点用紙(12.11.9)を使って採点される。

11.8 採点手順

採点と合否の意見決定の手続きは TSTA 試験全ての 3 つのセクションにおいて同じである。

- 試験委員会が採点し、合否を意見するための情報を十分得たと満足した時に、採点の手続きが始まる。
 - 試験委員長が候補者に対して、今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることと、これ以降は試験官しかプロセスファシリテーターを呼ぶことができないことを伝える。
 - それぞれの試験官は自分自身で採点を行う。
 - 試験官は自分の採点を修正してもよい。
 - 採点が読み上げられる。
 - 試験委員長は自分の採点用紙にスコアを書き込む。
 - 委員長は試験官メンバーに対して、今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを知らせる。
 - 試験官たちは合格か合格見送りか、合否の意見を表明する。
- 採点は 1 つの指針として使用されるべきで、試験官の判断が最終決定である。しかし、もし以下の通りだった場合には候補者は合格見送りとなる。
 - 2 人かそれ以上の試験官が合格見送りと意見した場合。
 - あるいは、3 つ全てのセクションにおいて総合得点が 60%未満であった場合、それは

A.理論、組織、倫理のセクション	: 15 ポイント未満
B.ティーチングのセクション	: 48 ポイント未満
C.スーパーヴィジョンのセクション	: 48 ポイント未満
 - あるいは、どれか 1 つでも 1 つの採点項目に関して、試験官全員から評価点 1 がつけられた場合。
- もしも上記のいずれも当てはまらず、3 人あるいはそれ以上の試験官が合格と判断した場合（3 人の試験委員会であれば 2 人が合格と判断した場合）、候補者は合格となる。
- 候補者は、試験が終わった後、ただちに試験監督者から渡される試験評価用紙に試験官に関するコメントを書くように求められる。

11.9 TSTA 試験における試験官のためのガイドライン

TSTA の試験官は以下のように振る舞うべきである。

- 候補者の提出した文書を試験のプロセスが始まる前に読んでおき、試験開始の時点で候補者とともにそのファイルを見直す。このプロセスにおいて、彼らは肯定的にストロークできる何かを探すべきであり、その候補者と良く知り合うための時間として使うべきである。
- 1 度に 1 つの質問のみをする。
- できる限り開かれた質問をして、欲しい情報を明確に尋ねる。例えば、

- どのようにして TA のトレーニングに携わるようになりましたか？
- なぜあなたは今も変わらずに関心を持っているのでしょうか？
- TA 理論が現在のようになってきたことへの、バーンの独創的な貢献は何だと思えますか？
- TA の教師およびスーパーヴァイザーとして、あなたはどれぐらいの大きさのトレーニンググループを持っていますか？
- どうしてそうなのですか？
- 成人教育の他の理論について、あなたは意識していますか？
- それらをどのようにトレーニングで使いますか？
- トレイニーとのスーパーヴィジョンのセッションの間、あなたはどのような種類の診断的プロセスを使いますか？
- もしあなたが仮に次の ITAA の会長になるとしたら、あるいは国内の TA 組織の会長になるとしたら、その組織の重要な目標の 1 つにどのようなものを掲げますか？
- 候補者が自分の反応をどのように評価されているかが分かるように、全ての質問の後にフィードバックを与える。もし候補者が質問に対して不完全あるいは不正確に答えたのであれば、試験官はどういう答えを候補者に求めていたのかを伝えなければならない。
- 候補者の強みと有能な面を探す。そして候補者の返答によって明らかになった、問題となる可能性のある領域について、議論するかもしれない。もしくは説明する。
- 「私にそれを説明して下さい」あるいは「それについてもっと私に話して下さい」といった肯定的な質問をする。そして「私は・・・について気になっているのだが（心配なのだが）」といった特定のでない否定的な言い回しを避けること。
- 候補者が知らないことが明らかな領域に関して、質問を重ねてしまうということに陥らないようにする。候補者が時々「知りません」と言うのは OK である。
- 喜んで聴き、候補者の準拠枠から理解する。TA は多くの方法で使われうるものである。候補者が試験官と違うやり方であってもかまわない。しかし重要なことは、候補者が基盤としている自分の考えを説明できること、それを立証できることである。
- 試験のスーパーヴィジョンセクションにおいて、候補者やスーパーヴァイザーのいずれに対しても教えるはいけないし、スーパーヴィジョンしてもいけない。試験官はそれをする契約は全くしていないのである。
- 試験委員会の他のメンバーにも注意を払い、彼らに今起きていることを知らせるだけでなく、フィードバックやサポートを与えること。

試験プロセスの時間の割り振り

- それぞれのセクションの試験にはおよそ 60 分を取るべきである（スーパーヴィジョンの試験はもっと長くなっても良い）。試験の終盤に向かうにつれて、試験官たちは候補者を採点するのに必要な情報を全て得たかどうかを振り返り、試験官たち間でさらなる段階について議論するべきである。
- 45 分を過ぎてもまだ、試験の最後が見えてこない場合、試験委員会は試験プロセスについて熟

考し、プロセスファシリテーターを呼ぶことを考慮すべきである。

- 試験が通訳を介している場合には、これら全てを行うための時間は、延長される必要があるだろう。通訳を介する試験の場合、全体の時間はだいたい 90 分ぐらいになるだろう (第 9.8 節の、通訳を介する試験のためのガイドラインを参照のこと)

11.10 TSTA 試験のスーパーヴィジョンセッションにおけるスーパーヴァイジーのためのガイドライン

IBOC はスーパーヴァイジーになってくれる方に対して、試験プロセスに参加することに興味を持ち、一役を担うことに対して謝意を表したい。この重要な課題を果たす際にスーパーヴァイジーとなる彼らを助けるためのガイドラインをいくつかここに記す。

- スーパーヴァイジーは、主要な焦点が試験と候補者に当てられていることを意識しておくべきである。スーパーヴァイジーは、何かを学んだり、知り合っていないスーパーヴァイザーから無料のスーパーヴィジョンを受けるためにこの機会を使うべきである。
- 彼らは解決することに興味がある問題を持ち込むべきである。言い換えれば、本当の質問であり、ロールプレイではないということである。
- スーパーヴァイジーは、試験で行うスーパーヴィジョンは 20 分の時間枠に制限されることを心にとどめておくべきである。もちろん、スーパーヴィジョンにおけるこの時間をやりくりする能力を示すのは候補者の仕事である。しかし、自分自身のために最大の利益が得られるよう、スーパーヴァイジーは 20 分で実際に扱うことができると思うスーパーヴィジョンの問題を持ってくるべきである。
- 同様に、スーパーヴィジョンのために明確な契約へと誘い、契約が満たされたかどうかを判断するのはスーパーヴァイジーの仕事ではなく、候補者の仕事である。しかし、自分自身の利益のために、スーパーヴァイジーはこのスーパーヴィジョンから何を得たいか前もって考えを示したいと望むことはかまわない。
- スーパーヴァイジーは候補者がいくらかストレスのある状況におかれているとはいえ、彼らは経験あるスーパーヴァイザーであることを覚えておくべきである。それゆえ、スーパーヴァイジーは、例えば候補者の救助に乗り出すべきでなく、自分自身であるべきで、試験のスーパーヴィジョンを他のスーパーヴィジョンのセッションと同じように扱うべきである。
- CTA か CTA トレーニーのスーパーヴァイジーは、そのスーパーヴァイザーの応用領域である実務の問題を持ってくるべきである。試験のこのパートの目的は、実務家をスーパーヴィジョンする候補者を評価することである。
- PTSTA のスーパーヴァイジーは、自分自身のトレーニングあるいはスーパーヴィジョンに関係する問題を持ってくる。PTSTA としての彼らの実践は候補者の応用領域のものであるべきだ。試験のこのパートは候補者がトレーナーそして/あるいはスーパーヴァイザーをスーパーヴィジョンする能力をテストすることである。
- もしも試験が通訳者を介して行われているのであれば、スーパーヴァイジーは通訳者が通訳するための時間を与えなければならない。とりわけスーパーヴァイジーが候補者と同じ言語で会話をしている場合や、試験委員会の中に一人でも異なる言語を話す人がいる場合においては、通訳

の必要によって、プロセスのスピードはかなり落とされる。それによってスーパーヴァイザーの思考プロセスや自発性を邪魔する可能性がある。しかしそれは熟慮したり統合的に考えるための特別な時間を与えもする。

●持ち込まれたケースは、試験中のスーパーヴィジョンの内容やプロセスとともに、厳しく守秘義務を持って扱われなければならない。それは、他のスーパーヴィジョンのセッション同様、スーパーヴィジョンの内容、スーパーヴァイザー、同席者の秘密は守られる。

11.11 委員長、プロセスファシリテーター、オブザーバー、通訳者の役目（第 9 節を参照）

11.12 一部合格

もしも候補者が試験の最初のセクション（理論、組織と倫理）に合格し、他の 2 つのセクションにおいて合格見送りとなった場合、彼らは翌年の 12 月 31 日までに残るセクションの少なくとも 1 つに合格しなければならない。時間の制限を超えた場合には、候補者が再度受験する時に最初のセクションも繰り返さなければならない。最初のセクションと残りの 2 つのうち 1 つを合格している候補者は、将来のどの時点でも 3 回目の受験をすることができる。

11.13 抗議

ハンドブックの第 9 節と同じ規則が適用される。

11.14 書類書式

ティーチング試験のための 101 のトピックリスト (12.11.1)

List of TA101 Topics for Teaching Examination (12.11.1)

PTSTA の年間要約レポート (12.11.2)

PTSTA Annual Summary Report (12.11.2)

PTSTA に関するスーパーヴァイザーによる年間要約レポート (12.11.3)

PTSTA Supervisor's Annual Summary Report (12.11.3)

TSTA の試験申し込み用紙 (12.11.4)

TSTA Examination Application Form (12.11.4)

TSTA 試験の必要事項の受理証明 (12.11.5)

Acknowledgement of Items Received for TSTA Examination (12.11.5)

TSTA 受験のためのスーパーヴァイザーによる認定書 (12.11.6)

Supervisor's Certification TSTA Examination (12.11.6)

TSTA 採点用紙、理論・組織・倫理のセクション (12.11.7)

TSTA Scoring Sheet Theory, Organization and Ethics Segment (12.11.7)

TSTA 採点用紙、ティーチングセクション (12.11.8)

TSTA Scoring Sheet Teaching Segment (12.11.8)

TSTA 採点用紙、スーパーヴィジョンセクション (12.11.9)

TSTA Scoring Sheet Supervision Segment (12.11.9)

TSTA 契約 (12.6.2)

TSTA Contract (12.6.2)

試験官の評価用紙(12.7.13)

Examiners Evaluation Form (12.7.13)

試験監督者のレポート (12.7.4)

Examination Supervisor's Report (12.7.4)